

等には育成段階を経ずにフィードロットに送られるものがある⁽¹³⁾。
18、19)。

年間と畜頭数は約34百万頭で日本の約30倍であり、年間約8百万トンの牛肉(部分肉ベース)が生産されている^(13、15、17)。

(2) 輸入規制

1989年、英国等BSE発生国からの反すう動物及びその肉骨粉の輸入を禁止、1991年、BSE発生国からの反すう動物の肉の輸入を禁止した^(19、21)。現在、BSE発生国及び輸入規制が米国より緩い等の国からこれらの物品の輸入を禁止している⁽²⁰⁾。

1980年以降、BSEリスクのある国から輸入された生体牛は、英国から3百頭程度、他の欧州等からは千頭程度となっている。また、肉骨粉は、英国から5トン輸入されており、他の国からは反すう動物の肉骨粉は輸入されていない⁽³¹⁾。

カナダからは生体牛が年間50万頭～170万頭程度、肉骨粉が年間1万8千トン～4万4千トン程度輸入されている(2003年まで)⁽³¹⁾。

(3) 飼料規制^(9、10、11、12、25)

現行の飼料規制は、1997年8月に施行された連邦規則21CFR §589.2000に基づき行われている⁽²¹⁾。飼料規制の内容としては、一部のたん白質を除きほ乳動物由来たん白質を反すう動物の飼料原料に使用することの禁止及びその旨の表示の義務付け並びに給餌及び飼料製造の記録の保存を義務付けるものとなっている⁽²¹⁾。

これら飼料規制の遵守状況については、米国食品医薬品局(FDA)等の検査官がガイドライン⁽²²⁾に基づき検査を実施しており、検査結果を公表⁽²³⁾している。また、米国会計検査院(GAO)は飼料規制の実施状況について定期的に調査を行い、改善が必要な点について勧告を行っている⁽²⁵⁾。

なお、2003年12月に米国内でBSE感染牛が確認されたことを踏まえ、2004年1月には、牛由来の血液及び血液製品、残飯等の使用規制等について、同年7月には、全ての動物用飼料原料からのSRM、歩行困難牛及び死亡牛の排除並びに反すう動物用飼料製造施設の専用化等交差汚染防止対策の強化について、パブリックコメントを実施したが⁽²⁴⁾、これらの規制は未だ実施されていない。

飼料・レンダリング産業については、畜種別に施設の専用化等が進んでおり、配合飼料については自家配合農家等による畜種別の生産が多い⁽²⁵⁾。

(4) 報告義務及びサーベイランス^(19, 10, 11, 12)

1986年以降BSEについて届出が義務付けられ、獣医官は連邦政府及び州政府に通報することとされた⁽¹³⁾。

サーベイランスについては、1990年に米国政府がサーベイランスプログラムを開始し、以降13年間、BSEの陽性事例は見られなかった^(14, 22, 24)が、2003年12月、ワシントン州のと畜場でと畜された牛で、感染が確認された。

2003年の対象頭数は2万頭であったが、⁽²⁰⁾、BSE感染牛が確認されたこと等から2004年6月からはサーベイランスを強化し、12ヶ月から18ヶ月の間に20数万頭規模を対象とすることとした^(27, 28, 34)。この強化サーベイランスの下で、これまで35万頭以上の検査を行っているが、BSE陽性牛は確認されていない⁽²⁹⁾。

(5) と畜場及び食肉処理施設における対策^(12, 30)

と畜場及び食肉処理施設におけるBSE対策(2003年12月30日発表)については、①歩行困難な牛の食用禁止、②すべての月齢の牛について扁桃及び小腸を除去し、30ヶ月齢以上の牛について頭蓋、脳、三叉神経節、眼、せき柱、せき髄及び背根神経節の除去、③AMR(高圧で骨を破壊することなく肉を採取する方法)の規制強化(30ヶ月齢以上の牛のせき柱の使用禁止等)、④空気噴射スタンニングの禁止、⑤BSE検査中の牛肉はBSE陰性が確認されるまで流通禁止等を内容とする規則が2004年1月12日に施行されている。

4 米国のリスク評価等

米国におけるBSEのリスクは、米国内では米国農務省の依頼によりハーバード大学も評価を行っている(2001年、2003年)^(31, 32)ほか、米国外では欧州食品安全庁が評価を行っている(2004年)⁽³³⁾。また、米国農務省監査官が、サーベイランスについて評価を行っている(2004年)⁽³⁴⁾。

また、BSEが発生したことを受け、国際的な専門家グループがBSE感染牛の疫学的調査と米国政府のBSE対策について、調査・勧告を行っている(2004年)⁽³⁵⁾ほか、米国農務省は、北米で確認された4頭のBSE感染牛について疫学的な調査を行い、原因究明及びまん延の可能性について検証している(2005年)⁽³⁶⁾。

(以上)

参考資料 (米国関連)

- 牛肉貿易に関する国際基準と BSE リスク評価
 - 1 【衛生植物検疫措置の適用に関する協定 (AGREEMENT ON THE APPLICATION OF SANITARY AND PHYTOSANITARY MEASURES)】 (世界貿易機関 (WTO) の下で動植物検疫措置について規定した WTO 協定の附属協定)
 - 2 【OIE Terrestrial Animal Health Code (2004) GENERAL PROVISIONS SECTION 1.3. RISK ANALYSIS (1.3.1, 1.3.2)】 (国際獣疫事務局 (OIE) のリスク評価に関する規約)
 - 3 【OIE Terrestrial Animal Health Code (2004) CHAPTER 2.3.13. Bovine spongiform encephalopathy】 (OIE の BSE に関する規約)
 - 4 【OIE Terrestrial Animal Health Code (2004) APPENDIX 3.8.5. Factors to consider in conducting the bovine spongiform encephalopathy risk assessment recommended in chapter 2.3.13.】 (OIE の BSE に関する規約に基づくリスク評価を行う場合に考慮すべき要因)
 - 5 【Final Opinion of the SCIENTIFIC STEERING COMMITTEE on the Geographical Risk of Bovine Spongiform Encephalopathy (GBR) (Adopted on 6/July/2000)】 (欧州科学運営委員会 (SSC) による BSE リスク評価手法の最終意見)
 - 6 【Update of the Opinion of the SCIENTIFIC STEERING COMMITTEE on the Geographical Risk of Bovine Spongiform Encephalopathy (GBR) (adopted on 11 January 2002)】 (参考資料 5 の改正)
 - 7 【REGULATION (EC) No 999/2001 OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL of 22 May 2001】 (欧州連合の TSE 対策全般に関する規則)
- 米国の BSE 対策の概要
 - 8 【米国での BSE 発生に伴う海外調査について】 (農林水産省ホームページ: 平成 16 年 1 月に我が国が実施した米国の BSE に係る事実関係及び BSE 対策についての調査報告)
 - 9 【International Panel Report on BSE Measures in the US (2004.2.2)】 (BSE 発生を受けて、国際調査団が行った米国の BSE 対策に関する調査報告書)
 - 10 【Response to "Report on Measures Relating to Bovine Spongiform Encephalopathy (BSE) in the United States (2004.3.4)"] (国際調査団が行った勧告に対する米国政府の主張)
 - 11 【BSE に関する専門家及び実務担当者会合 (WG) 報告書 (2004.7.22)】 (日米の BSE 専門家及び実務担当者による両国の BSE 対策に係る技術的会合の取りまとめ)
 - 12 【牛海綿状脳症 (BSE) に関する質問と答え】 (在日本米国大使館ホームページ: 米国の BSE 対策についての Q&A)
- 肉牛産業の概要
 - 13 【OVERVIEW OF THE U.S. BEEF INDUSTRY】 (米国からの提出資料: 米国の肉牛産業の概要)
 - 14 【United States and Canadian Cattle (Agricultural Statistics Board NASS USDA)】 (米国農務省の統計資料)
 - 15 【Livestock Slaughter 2004 Summary (NASS USDA)】 (米国農務省の統計資料)
 - 16 【畜産統計調査 (平成 16 年 2 月 1 日現在) 農林水産統計】 (農林水産省大臣官房統計部の資料)
 - 17 【平成 16 年畜産物流通統計】 (農林水産省大臣官房統計部の資料)
 - 18 【Determination of Cattle Age】 (第 1 回牛の月齢判別に関する検討会資料)
 - 19 【Question and Requests to FDA】 (米国からの提出資料: 飼料規制に関する米国への質問に対する回答から抜粋)
- 輸入規制
 - 20 【Title 9, Code of Federal Regulations, Part 94.18, 94.19, 95.4】 (畜産物の輸入規制に関する連邦規則)

飼料規制

- 21 【Title21, Code of Federal Regulations, Part 589.2000 (1997.8.4)】(飼料規制に関する連邦規則)
- 22 【BSE/Ruminant Feed Ban Inspections (2003.10.21)】(FDA 検査官等の検査ガイドライン)
- 23 【CVM UPDATE -Update on Feed Enforcement Activities-(2005.3.17)】(飼料規制の遵守状況)
- 24 【CVM UPDATE-FDA AND USDA REQUEST COMMENTS AND SCIENTIFIC INFORMATION ON POSSIBLE NEW BSE SAFEGUARDS (2004.7.9)】(飼料規制の強化についてのパブリックコメント募集)
- 25 【MAD COW DISEASE -FDA'S Management of the Feed Ban has improved, but oversight weaknesses continue to limit program effectiveness (2005.2.25 GAO-05-101)】(飼料規制に関し米国会計検査院が 2002 年に行った指摘がどの程度改善されたかについて検証した報告書)
- 26 【米国及びカナダにおける BSE 対策に関する現地調査について (報告)】(農林水産省ホームページ : 米国及びカナダにおける BSE 対策の現地調査概要)

報告義務及びサーベイランス

- 27 【Bovine Spongiform Encephalopathy (BSE) Surveillance Plan (2004.3.15 APHIS)】(2004 年 6 月から実施している拡大サーベイランス計画)
- 28 【Evaluation of the Potential for Bovine Spongiform Encephalopathy in the United States : Harvard Center for Risk Analysis (2004.3.12)】(ハーバード大学が行った拡大サーベイランス計画の評価)
- 29 【Additional Question and Requests to USDA】(米国からの提出資料 : 米国への質問に対する回答 : サーベイランス部分抜粋)
と畜場及び食肉処理施設における対策
- 30 【Federal Register/Vol.69, No.7/Monday, January 12, 2004】(と畜場及び食肉処理施設における SRM の除去、ダウナー牛の食用禁止等の規制強化に関する連邦規則)

○ 米国のリスク評価等

- 31 【EFSA Scientific Report on the Assessment of the Geographical BSE-Risk (GBR) of the United States of America (USA)】(欧州食品安全庁が行った米国の BSE リスク評価)
- 32 【Evaluation of the Potential for BSE in the US (2001.11.26 Harvard Center for Risk Analysis)】(ハーバード大学が行った米国の BSE リスク評価)
- 33 【Evaluation of the Potential Spread of BSE in Cattle and Possible Human Exposure Following Introduction of Infectivity into the US from Canada (2003.10.31 Harvard Center for Risk Analysis)】(ハーバード大学が行ったカナダから BSE が侵入したと仮定した場合の米国の BSE リスク評価)
- 34 【Audit Report: APHIS and FSIS BSE Surveillance Program - Phase I (2004.8.18 USDA OFFICE OF INSPECTOR GENERAL)】(米国農務省監査官が行った米国のサーベイランスの評価)
- 35 【U.S.Department of Agriculture's Summary of the Epidemiological Findings of North American Bovine Spongiform Encephalopathy Positive Cattle】(米国農務省による北米で確認された 4 例の BSE 感染牛に関する疫学調査報告書)

牛の個体識別制度及び月齢確認方法について

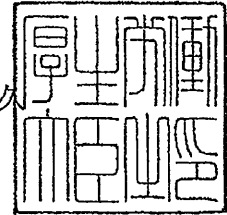
- 36 【牛の月齢判別に関する検討会報告書及び関係資料】



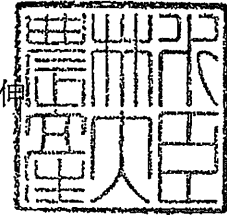
厚生労働省発食安第0524002号
17消安第1382号
平成17年5月24日

食品安全委員会
委員長 寺田 雅昭 殿

厚生労働大臣 尾辻 秀久



農林水産大臣 島村 宜伸



食品健康影響評価について

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第3項の規定に基づき、下記事項に係る同法第11条第1項に規定する食品健康影響評価について、貴委員会の意見を求めます。

記

現在のカナダの国内規制及び日本向け輸出基準（別添）により管理されたカナダから輸入される牛肉及び牛の内臓を食品として摂取する場合と、我が国でとさつ解体して流通している牛肉及び牛の内臓を食品として摂取する場合の牛海綿状脳症（BSE）に関するリスクの同等性

Canadian Food inspection Agency

May 16, 2005

**Standards for the Slaughter of Cattle and
Processing of Beef Products Eligible for Export to Japan**

This program will be a part of the export requirements of beef and beef offal for Japan as stipulated in Section 11.7.3 Japan ,of the Meat Hygiene Manual of Procedures.

1. INTRODUCTION

The purpose of this document is to describe the standards that beef slaughter and processing establishments must meet in producing beef products for export to Japan. The standards are designed to meet the following objectives:

- (1) to ensure removal of all tissues ineligible for export to Japan from cattle;
- (2) to prevent cross contamination of edible beef products from ineligible tissues during slaughter and processing;
- (3) to ensure that only products derived from cattle 20 months of age or less are prepared and certified for export to Japan; and
- (4) to enable verification of compliance with Japan's import conditions relating to BSE, in addition to Canada's domestic requirements.

Relevant domestic requirements under the provisions of the *Meat Inspection Regulations* and Meat Hygiene Manual of Procedures which form the foundation for protection of consumers of Canadian beef products from potential BSE risk are included in this document for the sake of completeness. These requirements are outlined in Section 4, below.

2. SCOPE

This document applies to slaughter and processing establishments producing fresh and/or frozen beef products¹ for export to Japan. Establishments verified to be meeting the standards described in this document will be eligible to export fresh and/or frozen beef products derived from animals aged 20 months or less from which tissues ineligible for export to Japan have been removed.

¹ Comprising fresh and/or frozen muscle cuts, trimmings, offal and variety meats.